

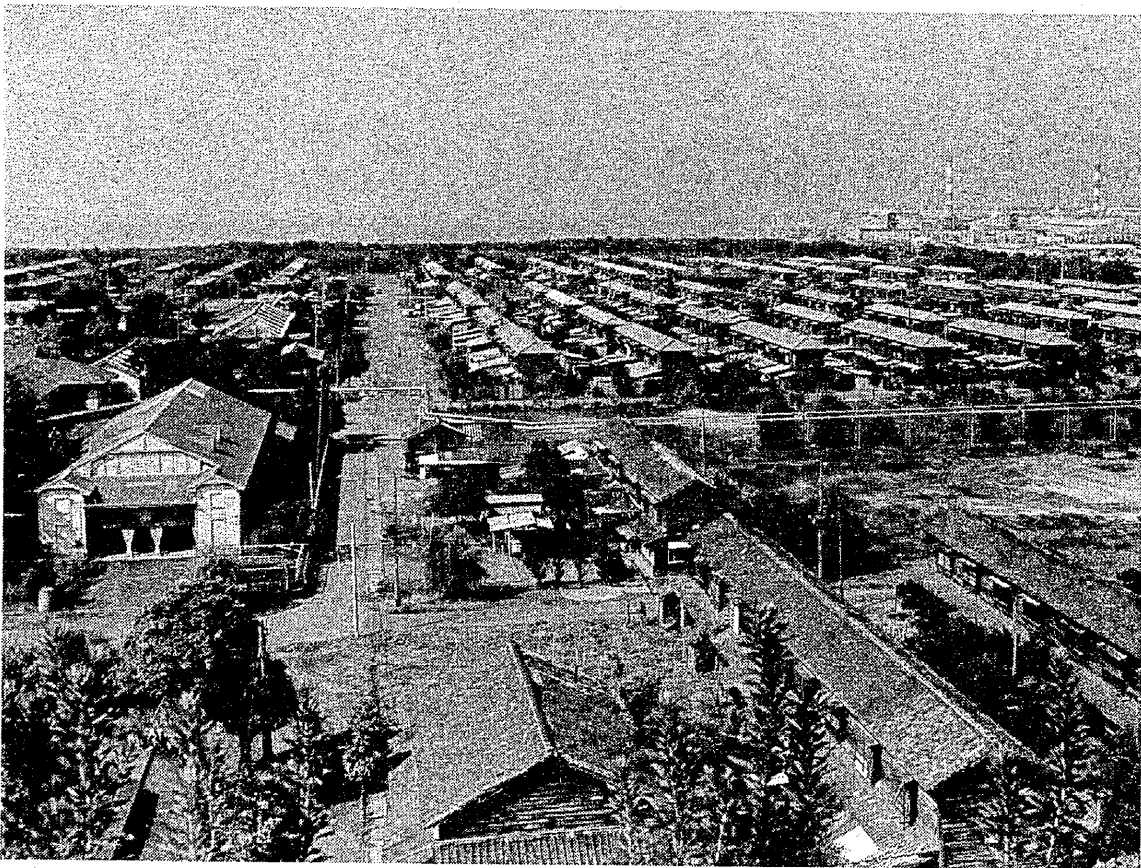


発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033-4
編集兼
発行人 杉本一男
半年間1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825-0000569

四山社宅を貯炭場に

会社、貯炭増理由に全面撤去を提案

三井石炭三池鉱業所（黒田裕史所長）は八月四日、貯炭増に伴う貯炭場造成のために四山社宅を来年三月末をもって全面撤去したいと提案しました。提案では、熊社を六十二年三月末までに、福社は六十二年三月末までに退去して退去しますが、百六十四世帯が住居する大集団社宅であり、組合では早急に提案に対する態度を決め対応することとしています。



全面撤去を提案された四山社宅。道路をはさんで右側が福社（大牟田側）、左側が熊社（荒尾側）

春闘交渉引延ばし

炭労の春闘は、各山に加えられ、すでに砂川の閉山問題も決着している閉山・合理化攻撃のなかで、がついたにもかかわらず、需要側と供給側の引延問題が解決しないこと、口実にして交渉を引き延ばし、理化した後に延期を繰り返している。交渉の日程は未定状況です。

提案内容（要旨）

六十一年度夏以降の急激な円高と産業構造不況による需要家の引取減によって、生産規模を年産四百五十万トンから三百五十万トン（六十二年七月以降）へ縮小したが、貯炭は六月末で二百五十六万七千トンに達している。

今後の需要増加の見通しはなく、来年度末で三百五十万トンの貯炭が見込まれる。

貯炭場については、社有地を最大限に活用し、昨年末には新港社アルミパイプ添いの一部

北炭問題が緊迫

真谷地鉱の閉山反対闘争へ

第八次石炭政策施行前に三菱高島炭鉱が閉山、さらに施行後は三井砂川炭鉱が閉山第一号となり、船問題が緊迫した状況になっています。

すでに炭労は「北炭対策委員会」を設置し、北炭をとりまく諸問題、とくに真谷地問題について取り組んでいますが、①真谷地炭鉱の

財源確保のメドつかず

編成作業は難航中

年度算
来石炭予

石炭労協は八月五日、六十二年通産省交渉を行いました。六十二年度石炭・石油・代替エネルギーの財源とされている原油増産税、

十月から二鉱体制へ

統合、合理化を提案

提案内容

八月四日、三池炭鉱所は五月に施行した縮小合理化に伴う四山社宅と三川鉱の統合について提案しました。

1、四山社宅貯炭場造成計画
①第一期 62年9月1日着工
62年12月末完成
（旧坑北側、旧坑西側クラブ裏、アルミパイプ添いの一部）
②第二期 63年1月5日着工
63年3月末完成
（四山社宅II熊社、グラント、アルミパイプ添いの一部）

四山社宅入居状況

7月25日現在

内 訳	福社	熊社	計	備 考
新 労 組 員	78	39	117	直 轄 129
三池労組員	9	3	12	
新労退職者	28	5	33	退職者 33
三労退職者			0	
店 舗	1		1	その他 2
旭 汽 工	1		1	
集 会 所	4	4	8	
便宜2戸貸	37	13	50	
空 戸	194	158	352	
計	352	222	574	164

※他に福利施設 4

地底

八月六日は広島、九日は長崎に原爆が投下された日。そして十五日は敗戦記念日。正しくいえば、反ファシズム世界大

なお、入・昇坑経路変更に伴う諸問題については、別途提案したい。

希望退職、配置転換を含む縮小合理化については五月十五日に提案され、同二十八日から行われた中央交渉で三池労組の要求は拒否され、二、二十四時間ストに突入した。その後、二、二十四時間ストに突入した。その後、二、二十四時間ストに突入した。

石油税の大幅減収が見込まれるなかで、必要財源確保のメドがたつておらず、例年よりかなり編成作業が遅れていることが明らかになりました。

要求の重点として「六十三年度国内一般炭需要量一千万トン以上の確保」を求めているのに対して、通産省は「いま六十二年度国内原料炭の引取量について業界間の交渉が行われており、この決着をみて一般炭引取量交渉となるが、この結果を見守っている段階で六十三年度の需要量をうんぬんできない」との回答にとまどいました。